



第6回がん哲学外来コーディネーター養成講座実行委員長

鈴木 聡 すずき さとし

(石巻赤十字病院 副院長)

石巻によろこそ。

東日本大震災の後、多くの人々が語るべき言葉を見つけられなくなりました。少しして、再び言葉が生まれる日を待ちながら黙って寄り添う人たちが現れました。今回、私たちはその寄り添う人たちの言葉を聴きましょう。病気でも、災害でも、どんな試練でも、それに立ち向かう人々がいる、そこから立ち上がろうとしている人々がいる。その人々を支える力が私たちの中で醸成されていく場、それこそが「がん哲学外来市民学会」なのだと思うからです。

「聴く(きく)」の語源は「息(いき)・来(く)る」が約まったもの、という説があるそうです。ならば、「聴く」ということは「息」を待つこと。それはその人を待つということ。それは、その人を想うこと、そして寄り添うこと。こうして、今年のテーマ「ここに寄り添う」は、昨年の金沢大会の「傾聴」を引き継ぐことができるようになった気がしています。

「がん哲学外来コーディネーター養成講座」(7月9日)も「がん哲学外来市民学会」(同10日)も、単に知識を得るための時間ではないことを願います。私たちが自ら考え、語り、聴き、また考え、語り、聴く。石巻がそんなとびっきり能動的で豊かな時をもたらしますように。

<略歴>

1959年宮城県生まれ。東北大学医学部卒。東北大学大学院医学研究科修了。東北大学加齢医学研究所医師、カルガリー大学医学部ヘルスサイエンスセンター研究員、モントリオール・オーテル・ディウ病院附属研究所研究員、オーストラリア・ベーカー医学研究所研究員、東北大学医学部講師などを経て、2006年から石巻赤十字病院呼吸器外科部長。2013年から現職。専門は呼吸器外科。東北大学医学部臨床教授。